

JAPAN COLLECTION

高松市美術館コレクション展



野嶋	関根 伸夫
赤瀬川原平	関根 美夫
荒木 高子	高松 次郎
磯辺 行久	田窪 恭治
岡崎乾二郎	辰野登恵子
岡本 太郎	立石 紘一
オノサト・トシノブ	田名網歌一
柏原えつとむ	田中 敦子
金山 明	長沢 英俊
河口 龍夫	中西 夏之
川俣 正	福田 美蘭
河原 温	松本 陽子
菊畑茂久馬	三木 富雄
北辻 良央	森村 泰昌
工藤 哲巳	山口 勝弘
合田佐和子	山本 富章
小清水 勲	山本 啓子

佐藤 信子	岡田 英樹
高橋 幸次	王シヤシヤル
岡田 英樹	吉村 益隆

合田佐和子「くわえタバコのテートリッヒ」1973

1994.7.1[FRI]—7.10[SUN]

開館／午前9時～午後5時(入室は午後4時30分まで)
金曜日は午後7時まで開館(入室は午後6時30分まで) 月曜日休館

高松市美術館 高松市紺屋町10-4
TEL (0878) 23-1711

入場料／一般400円・高大生200円・小中生100円(一般前売および団体20名様以上は2割引)

主催／高松市美術館



森村 泰昌「肖像(衆3)」1986-90



横尾 忠則「TADANORI YOKOO」1985



福田 美蘭「Sight-Seeing」1990

この展覧会は、高松市美術館のコレクションの中から、第二次大戦後に行われた40名の日本のアーティストの仕事を紹介するものです。

“コレクション”と“展覧会”、これらはともに美術館において特別な機能を与えられてきました。明治から大正期にかけて西歐的なアートの概念が“美術”として移植されていく過程の中で、美術館のシステムもまた並行して形成されていきます。内国勸業博覧会や帝展に典型的に見られるような展覧会という形式、そして作品を美術品として体系化していくコレクションという機構は、美術館という場を支える中心的な役割を果たしてきましたし、そのような構造は基本的には現在まで保たれています。

さて今日、日本に限らず各国の様々なスペースで、コレクションすることのできないプロジェクトや、展覧会という枠から離れたアートが行われる状況の中で、コレクション・展はどのようにしてその意味を示すことができるのでしょうか。もとより日本の美術館は近代国家の成立と歩調を合わせて作られてきたものです。したがって“日本のアートのコレクション”、“日本の美術館によるコレクション”という、JAPAN COLLECTIONが持つふたつの意味のいわば狭間に“コレクション展”は立つことになるでしょう。今回の展覧会では、コレクションし展示するという一定の枠の中にあっても決して眠ることのない、作品自体が持つ強度を引き出します。



岡崎乾二郎「あかさかみつけ」1981

■催し物のお知らせ

藤浩志のインスタレーション+

サウンド・コラージュ・パフォーマンス

インスタレーション/8月5日金~8月28日日

サウンド・コラージュ・パフォーマンス/8月20日土

ワークショップ/8月21日日

日本のアニメーション(1946-1962)

8月12日金・8月13日日

■次回展覧会のお知らせ

鳥山明の世界展/8月5日金~9月4日日

記念講演会(講師:布施英利)/8月7日日

■第2期常設展のお知らせ

展示室1

モナ・リザとマリリン・モンロー

展示室2

香川ゆかりの漆工と金工

—「工芸」の成立— /7月10日日まで

NOV.18.1987